

雲市議会議  
行革特別委

# 64施設の方針 市長に申し入れ

## 体育館は統合、温浴施設は譲渡を

出雲市議会行財政改革特別委員会(萬代輝正委員長、8人)は24日、これまで検討してきた市内64施設の今後の方針について、存続、譲渡など委員会としての考えをまとめ、長岡秀人市長に申し入れた。市は今後、今回受けた検討結果も踏まえながら、市内公共施設198施設のあり方について検討を進

め、年度内に一定の方針を示す考え。  
市は、市内に約800ある公共施設のうち、203施設を第1次見直し施設に設定し、評価項目を定めて基準点を算出するなど、検討を進めてきた。これまでにグループホームやリハビリセンターなど4施設を民間に移譲し、公園1施設を用途廃止としてい

各個の施設について公共サービスの要・不要と、改善、譲渡、廃止などの考えをまとめ、市に対して年内に方針をまとめるよう求めた。

行革特別委は203施設のうち、議会としての見直しの考え方を示すため、評価基準点などを勘案して64施設を選出し、施設の運営状況や現地視察などを通して個別の方針を検討してきた。  
今回、市民文化系施設や産業振興施設など、目的別の施設群ごとに方向を出し、



クリエーション施設について、体育館は「統合を検討」、温浴保養施設は公共サービスの

長岡市長(左)に意見を述べる萬代委員長(右手前から3番目)  
24日、出雲市役所

必要性が低く「譲渡を検討」などとした。  
個別施設では、大社文化プレイスつらら館、スサノオホール、斐川文化館が「改善」もしくは他施設との機能統合。出雲・平田・斐川第2体育館は「統合を検討」とした。  
廃止すべきとの方向を示したのは、▽稗原運動公園テニス場を用途廃止▽出雲平田B&G海洋センターと今市元気交流館は廃止して土地、建物処分▽吉兆

館を含む、縁広場を廃止して用途変更を検討▽クアハウス湖陵は譲渡、もしくは廃止で、売却、無償譲渡を検討するなどだった。  
長岡市長は申し入れを受け、「個々の施設の検討結果を重く受け止め、サービス提供の必要性などを検討しつつ、年度中に方向を出したい」と話した。